

第3回地球温暖化対策研究推進委員会（結果概要）

1 日 時：平成20年4月3日（木）10時～12時

2 場 所：農林水産技術会議委員室

3 出席者：別紙のとおり

4 概 要：

（1）宮下委員から資料1について、事務局から研究戦略の考え方について説明があった。

（2）出席者からの主な発言は以下のとおり。

- ・ IPCC 報告書に日本の研究成果をさらに反映させていくためには、日本政府から IPCC 事務局に日本人研究者を執筆者等に積極的に推薦していくことが重要。
- ・ IPCC 報告書のほかに特別報告書や IPCC ガイドラインの作成にあたって数多くの日本の研究者が執筆者等や引用文献の形で貢献しており、貢献度として適切な指標で整理していくことも必要。
- ・ 研究戦略は、①基本的認識、②防止技術研究、適応技術研究及び国際共同研究からなる推進方策、③研究推進に必要な提言で構成すること。
- ・ 『基本的認識』においては、農林水産業の相互性やライフサイクルアセスメントを考慮した研究の重要性とともに、農林水産業の生産性や経済性への考慮についても記述すること。
- ・ 『防止技術研究』においては、温室効果ガスの収支モデルの構築と排出削減技術とともに、土壌炭素貯留技術等の温室効果ガス吸収・固定技術の開発の重要性について記載すること。
- ・ 『適用技術』においては、将来の温暖化の影響予測・評価、生

産安定技術の開発の推進とともに、行政部局が行う温暖化適応対策を推進する研究の重要性について記載すること。

- ・『国際共同研究』においては、国際機関の連携やこのための資金的・人的貢献の重要性、開発途上国側の研究組織や人材の能力開発への支援の必要性について記載すること。
- ・『研究推進のため』においては、研究側と行政側、関係省等との連携の強化や、研究成果の海外への情報発信等についての戦略的検討の重要性について記載すること。

(別紙)

第3回 地球温暖化対策研究推進委員会 出席者リスト

(委員)

国立大学法人東京大学大学院

農学生命科学研究科教授

林 良博

学校法人北里学園北里大学副学長教授

陽 捷行

国立大学法人茨城大学

地球変動適応科学研究機関長教授

三村信男

農林水産政策研究所長

齋藤 登

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構理事長

堀江 武

独立行政法人農業環境技術研究所理事

宮下清貴

独立行政法人国際農林水産業研究センター一理事長

飯山賢治

独立行政法人森林総合研究所理事長

鈴木和夫

独立行政法人水産総合研究センター一理事長

川口恭一

(行政部局)

農林水産技術会議事務局長

竹谷廣之

大臣官房審議官（環境兼生産局）

佐々木昭博

農村振興局整備部長

齋藤晴美

林野庁森林整備部長

針原寿朗

水産庁増殖推進部参事官

飯田貴次

農林水産技術会議事務局研究総務官

小栗邦夫